

九重の高原から

TAKE FREE

さとぼる時間

九重ふるさと自然学校通信

Vol. 34

2016. 春号

九重のさとぼる【里の草原】で育まれてきた自然や文化、そしてそこに流れるようなのんびりとした時の流れを感じてほしいという願いを込めて、「さとぼる時間」と名付けました。

特集

チョウの保全活動



今号の主役 

ハヤシミドリシジミ

夏、飯田高原は冷たい雨が降っていた。カシワの葉っぱで雨宿りしていた彼に急接近しても、全く逃げようとならない。羽を広げてくれと期待するも押めず！閉じられた羽の隙間から覗く美しい青色が一段と眩しく見えた。

- くじゅうびと “農業で自然を守る”
- STAFF コラム
- ひなあられ & 春山の使者マンサク -
- 自然・里山体験プログラム 参加者募集

飯田高原でただいま進行中!

特集

チョウ類の保全活動

広大な草原が広がる大分県九重町飯田高原。全国的に少なくなった草原は、野焼きなど人の手が適度に入らなければ維持することができません。そのような環境にしか生息できない生きものがあることを、皆さんはご存知でしょうか?

九重ふるさと自然学校が活動場所としている九重自然教室「さとばる」。敷地内には草原が広がり、面積は小さいものの林もあります。ここで今、草原とともに全国的に数が少なくなってしまったチョウを保護・保全しようとボランティアスタッフや地域の方々で活動しています。



左上から時計回りに、コムラサキ、ウラギンヒョウモンツバメシジミ (交尾中)、クロヒカゲ

一言に「チョウの保護・保全」といっても、さとばるにどんな種類のチョウが生息しているかを知る必要があります。2013年からチョウが活動する4月から10月にかけて種類や個体数のデータ収集を行ったところ、5科59種計1,312個体ものチョウが確認されました。その中には、大分県のレッドデータブックで絶滅が危惧されている種が8種確認され、また、林がなければ生息できない種(主に林縁や疎林に生息する種)が59種中38種と多いことが調査によって明らかになりました。このデータを元に、草原のチョウだけではなく林に生息するチョウも含めて保護・保全の方法を模索する必要があります。また、野焼きをせずに草刈りで草原環境を維持する「野焼き延期区画」を設けるなど、草原で蛹になって冬を乗り切るチョウへの野焼きの影響調査などを通じて、活動の効果を検証していく予定です。



仲間“部員”を募集中!

さとばるサロン(チョウ部)

当校では、雄大な草原や森が作り出す景観と同じように、そこに生息するチョウも地域に残る“宝”として多くの人に知って欲しいと思っています。自由な意見交換ができる場にしたいと思っていますので、チョウが好きの方、保護・保全活動に興味がある方、一緒に活動しませんか?



白いチョウにもいるんな種類があるんですね。

こんなところにもチョウの卵が...

▲さとばるサロン(チョウ部)の活動風景。みなさん、チョウの生態に興味津々!

活動日

- ①4/24(日) ②6/12(日) ③7/10(日)
- ④8/11(木・祝) ⑤10/2(日)

時間：10:00～12:00 ※少雨決行。荒天の場合は中止
 場所：九重自然教室「さとばる」
 持ち物：汚れても良い動きやすい服・靴、飲み物、タオル、帽子等
 ※長袖長ズボンをおすすめします
 内容：・さとばるを散策しながらチョウの捕獲と記録
 ・「野焼き延期区画」の整備(刈った草の除去など)

※参加には、原則「ボランティア登録」が必要になります。

九重の様々な分野で活動する人にお話を聞く連載記

くじゅうびと

Vol.7



農業で九重の自然を守る

イーグルファーム3代目
わしず
鷲頭 将治さん

「牛飼いに1日たりとも同じ仕事はない。モノづくりは、ゼロから作り出す喜びがある。」そう話す通称“わっしい”こと鷲頭さんは、大分県九重町の飯田高原で4世代9人家族で畜産業などを営む農家だ。お祖父さんの頃から牛飼いを始めて3代目。現在は子牛の生産を中心に年間100頭以上の管理を行っている。

飯田高原では昔から野焼きを行って草原を維持してきた。それは、農耕や畜産に必要な牛馬のエサや屋根の茅葺材を確保する等のためだ。それだけ草原は非常に重要な資源であり、関わりが深かった。昭和の初期には「全日本草刈り選手権」と呼ばれる大会があり、わっしいの祖母ミサヲさんは、女子の部でなんと!日本一という輝かしい成績を収めている。

さて、鷲頭家では「夏山冬里」と言って、5～12月までの間は妊娠中の母牛を山の草原(野草地や牧草地)で放牧し、雪と共に里の牛舎に連れて帰って世話をする。昔は山で産んでしまうこともあったそうだが、事故の危険性があり、今は出産1か月前(人間でいう臨月)を迎えると、季節に関係なく連れて帰るそうだ。畜産を営む仲間と共同管理する草原は100haほど。かつては40軒で管理していたが、草原の野草利用が減り、今では4軒になった。「少人数で広大な草原を野焼きして維持することは大変。そのため野焼きを中止することも考えた。」

しかし、継続しているのには理由がある。現在の飯田高原の草原景観の成り立ちには、そこに暮らす人々、そして畜産をはじめとする農業が寄与してきた。「農業が続くことは田舎が続くこと、そして飯田の景観もそこにすむ動植物も守られていく。」その信念を持っているからこそ、草原を活用した畜産を行ってきたのだ。

「飯田高原は山々に抱かれ、守られている優しさを感じる。一方で、絶対に叶わないという自然の圧倒的な存在感も好きです。」普段、自然と共に暮らすわっしいの言葉は実に深い。「祖父、父から受け継いできた農業を、そして飯田を後世につなげたい。」そう語るわっしいの瞳はまっすぐ前を見つめ、澄んでいた。



▲山での放牧の様子。牛が見当たらないときは、フンが新しいか古いかを見て探すこともある

STAFF

いけまりの

里山レシピ

Vol.2



時松さんに聞きました!

ひなあられ

ひなあられは、桃の節句「ひな祭り」の定番お菓子。旧暦の3月3日(現在の4月3日頃)のひな祭り用に作り、農家のおやつとしても食べられてきました。原料はもち米で、搗(つ)いた餅に「すりおろした里芋」を入れるのがミソ。そうすることで「ふわっさくっ!」という食感が生まれます。また口どけがよいのも特徴で、「初節句を迎えた赤ちゃんでも食べられますように」との先人の思いが込められた祝い菓子なのです。

搗き終えたらめん棒で5mmほどの厚さに伸ばし、約1週間乾燥させた後、5mm角の大きさにカット。その後1か月ほど乾燥させて完成!食べる分だけを弱火でココロ炒ればできあがりです。



時松 和弘さん

お米からできる菓子といえば? あられにかきもち、せんべい。実は、冬から春にかけて作られる保存食でもあるんですよ。



▲赤シソやヨモギを混ぜると、色や素材の風味も楽しめる



▲乾燥させたものは、四角い胎のよう。3mmほどの薄さになる



▲ゆっくり転がしながら炒ると...あら不思議!ふっくら丸く膨れる

STAFF さっしーの

くじゅう山ノート

Vol.1

春の使者マンサク

立春が過ぎ、ひな祭りをお祝いしても、九重の春はまだまだ先。残雪と寒さが残る3月中旬、花暦では春を告げる山の花が咲きます。マンサク(マンサク科)です。言われは「先(ま)ず咲く」のなまりとも。冬枯れの山をどの木々よりも先に染める姿からきたのでしょうか。九重町の長者原から三俣山のお腹を隠すように鎮座する指山を見ると、うっすら黄色に色づいた所が肉眼で望めるほどです。

名所は佐渡窪(さどくぼ)。久住高原から法華院温泉に通じる登山道にあります。最近、山塊崩壊による土砂の堆積が進み、1m以上幹が埋まったものも。が、なんと生存中!植物の生命力には本当に驚かされます。植物は、日光と水とCO₂さえあれば自分で栄養を作り出せる能力もあり、彼らこそ地球上で最強の生物じゃないかと思ってしまう。

さて、春分の頃に降る暖かい雨は「花起こしの雨」とも呼ばれ、山ではマンサクを皮切りにアセビ、4月に入ればケクロモジ、ツクシジャクナゲなど、春の樹木の花が次々に開花し始めます。春は樹木の花に注目して登山するのも面白いものです。山頂を目指すだけではない楽しさを見つけると、既知の山も新鮮に見えてきますよ。



2016

3～6月開催分

自然・里山体験プログラム 参加者募集



田んぼプログラム

この事業は「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」が推奨する事業として認定を受けています。

5/21(土) 春のボランティア day キャンプ

10:00-17:00

～大人の田植え祭り～

定員
14名

手植えによる田植えを行います。
昼食は田んぼで炊き上げる羽釜や
土鍋のご飯に舌鼓！

集合：九重ふるさと自然学校事務所
参加費：無料 / 対象：社会人および学生
申込締切：5/9(月) ※9/17 稲刈り祭り開催！



5/28(土) トキもすめる田んぼづくり

-29(日)

～田植えキャンプ～

定員
20名

集合 13:00/ 解散 14:00



苗取り&田植え&生きもの探し&食事作り&温泉♨
春の田んぼと九重の自然を丸ごと体験しよう！

集合：九重自然教室「さとぼる」
参加費：大人 4,000 円、子ども（小学生）3,000 円
申込締切：5/21(土)

※7/17 草取り、9/22 稲刈り 11/3 収穫祭の全4回シリーズ！

田んぼの生きものしらべ

【各回】

定員
20名

5/14(土) 「春」

田植え直前!! 生きもの豊かな「自然共生型田んぼ」で何がみつかれるかな？

6/18(土) 「初夏」

生きものが活発な季節。みんなで泥んこになりながら生きものを探そう！

各回 13:30-16:30

集合：九重ふるさと自然学校事務所

参加費：各回大人 500 円、子ども 300 円

申込締切：開催日の前日まで



※春、初夏、秋（10/10）の全3回にご参加いただいた方には、「田んぼの生きもの博士」の認定状をプレゼント！

年間スケジュールは、ホームページにて3月頃配信予定！

お問合せ

お申込みは



一般財団法人
セブン-イレブン記念財団

九重ふるさと自然学校

〒879-4911 大分県玖珠郡九重町大字田野1624-34 (事務所)

TEL0973-73-0001 FAX 0973-79-3434

✉ kujuu-sizengakkou@7midori.org



ホームページ

<http://www.7midori.org/kokonoe>



Facebook でも情報更新中！

3/12(土)

伝統の技

11:00-16:30

“ワラぞうり” づくり

定員
20名

当校の田んぼでたくさんの生きものとともに育ったワラを使って作ります。先人が残した日本の伝統の技を習得！

集合：九重自然教室「さとぼる」

参加費：大人 500 円

子ども（小中学生）300 円

※親子で1作品の場合、100円割引

申込締切：3/6(日)



・弁当要持参。会場近くのお食事処も利用できます。
・大人の方向けのプログラムですが、小学生以上のお子さまでも可能です。

6/11(土)

草原の草花あそびと

13:30-17:00

ちまきづくり

定員
20名

九重の新緑の草原を散策し、摘んできた野草（ヨシノ葉）と生きもの豊かな田んぼで育った米の粉で、ちまきを手づくりします。



集合：九重自然教室「さとぼる」

参加費：大人 500 円

子ども（小中学生）300 円

申込締切：6/5(日)

タデ原バードウォッチング

【各回】

定員
15名

タデ原湿原の木道や自然観察路を散策しながら
野鳥観察。初心者の方もお気軽に♪

各回 9:30-12:00



5/7(土) 「春」

6/12(日) 「初夏」

集合：長者原ビジターセンター（大分県玖珠郡九重町大字田野 255-33）

参加費：各回大人 500 円、子ども（小中学生）300 円

申込締切：春 5/2(月)、初夏 6/6(月) ※双眼鏡の貸出あり

5/4(祝)

九重のんびりハイク。

9:30-16:00

春の九州自然歩道を歩こう！

定員
20名

九重の里山の春を探しに、温泉街や湖畔、絶景が待つ峠を巡ります。



集合：小松地獄公共駐車場

（大分県玖珠郡九重町湯坪 576-1 付近）

参加費：大人 500 円、子ども（小中学生）300 円

対象：10km 以上歩ける小学生以上の方

申込締切：4/27(水)



事務所
MAP



さとぼる
MAP